枚）までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九　論文別刷は五〇部単位とし、実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇　原稿の送り先

〒一一三　東京都文京区本郷二丁目一―一
順天堂大学医学部医史学研究室内
日本医史学雑誌編集委員会

編集後記

梅の開花便りの聞かれるころとなって、四四巻一号の編集作業がようやく終りに近づいた。あともう一度裏表紙の欧文目次の校正刷りを見せてもらえば、印刷に取りかかれよう。何よりも内容的に見て、本巻が堅実な良いスタートが切れることを喜びたいと思う。

これを追いかけて年初に始まった二号（抄録号）の編集もすでに平行して本格化しているが、こちらは作業量が多いので、まだこれからもいくつもの山を越えねばならない。しかし、大会の期日から逆算して、遅くも四月中旬までには一同力を合わせて、校了に漕ぎつけたいものと思っている。

作業に追われているときに、ときどき脳裏に蘇って来る風景がある。もう二十年も前のこと、初めて末席に連なった編集委員会に故小川鼎三、大鳥蘭三郎の両先生が欠かさず現れて、われわれ平の委員と同じように校正にいそしんでおられた場面である。爾来不敏にして今日まで叶わなかったことも多いが、筆者をしばしば初心に引き戻してくれたのは、この原風景だった。

もう一つ。先ごろ時ならず他界された故宗田一先生は、守備範囲が広く仕事の処理も抜群に速い方だったが、多年に互って論文の審査を率先して快く引き受けて下さった。本来、審査担当者の氏名は明かさないことになっているが、残念ながら過去形にせざるを得なくなった今日、これを片隅にせよ書き留めておくのは、編集に携わる者の義務でもあろうと思うのである。

（三輪　卓爾）